



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

虐待防止委員会主催

「令和 8 年度障がい者虐待防止研修」

入院係 甲斐 伊織

6 月 30 日 (火)、全職員を対象とした障がい者虐待防止研修を開催しました。昨年度に引き続き、一般社団法人沖縄県社会福祉士会 代表理事・会長の石川和徳様を講師としてお招きし、「虐待を生まない職場づくり～虐待を防ぐその一歩に～」をテーマにご講演いただきました。研修では、障がい者虐待の定義や不適切な支援の考え方、虐待防止のために心掛けるべきことなどについて学びました。

また、今回の研修ではグループワークが取り入れられ、支援の現場で虐待につながるおそれのある要因を挙げ、その理由や対策、未然防止のための行動目標について話し合いました。参加者それぞれが意見を出し合うことで、自分では気づかなかった視点や具体的な対策を知ることができ、大変有意義な時間となりました。さらに、虐待の背景要因の一つとなり得るストレスへの向き合い方についてもご講義いただき、支援者自身の心身の健康を保つことの重要性について理解を深めることができました。

職員への虐待防止の取り組みは、利用者様一人ひとりの尊厳を守り、安心・安全な支援を提供することにつながります。今回の研修を通して、虐待防止への意識を改めて高めるとともに、日頃の支援や関わり方を振り返る貴重な機会となりました。今後も職員一人ひとりが高い人権意識と倫理観を持ち、互いに相談し合える風通しの良い職場環境づくりに努めながら、虐待を生まない組織づくりと支援の質の向上に取り組んでまいります。

● 地域連携室だより

精神保健福祉士 松田 司

琉球病院では、受診相談、地域、行政、他医療機関からの相談窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、うつ病への治療として反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS)、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい医療を提供し、適切な対応ができるよう心がけております。初診はじめ、入院相談については予約制となっておりますので、ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964 年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993 年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95 年那覇市立病院精神科、96 年琉球大学精神神経科、2009 年琉球病院精神科部長、2010 年副院長を経て 2014 年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77 番名護東線」浜田バス停
下車徒歩 3 分

自動車 那覇市から 40 分沖縄自動車道金武
インターから名護向け 5 分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室 (直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ457例になりました。2026年5月のCLZ登録症例は2例で、そのうち1例は他の精神科病院に入院中の患者さんでした。CLZ導入前には、暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

西Ⅰ病棟のご紹介

西Ⅰ病棟師長 照屋 純二

西Ⅰ病棟は、重症心身障がい児(者)の病棟で、知的障害に加え運動機能障害の程度が低い、いわゆる「動く重症心身障がい児(者)」と呼ばれる入所者が対象です。特に、強度行動障害(強い自傷や他害、異食や粗暴性、パニック、奇声、多動など)で対応困難な利用者が多く、医療的ケアを必要とする方から、長期療養を必要とする方まで、医療・看護・療育・リハビリテーションなどを提供しています。医師・看護師・療養介護専門員・保育士・作業療法士・言語聴覚士・理学療法士など多職種が連携し、日々の健康管理だけではなく季節行事やレクリエーションなどを通じて、その人らしく笑顔で過ごせる環境作りを大切にしています。ご家族とのつながりを大切に、安心と温かさのある療養生活の提供が行えるように、精一杯支援を行って行きたいと思っています。

西Ⅱ病棟のご紹介

西Ⅱ病棟師長 南 ゆかり

西Ⅱ病棟は、45床の重症心身障がい者病棟です。経管栄養など身体管理が必要な利用者さんのほか、こだわりといった強度行動障害のある利用者さんも一緒に生活されています。日常生活のほか、院外活動や各行事など参加されている時の利用者さんは、声を出して喜んだり普段とちがう表情や行動がみられます。今後も、その人らしく療養生活を送れるように、利用者さんひとりひとりの特性を理解し、多職種で連携しながら、治療、看護、身体リハビリテーション、摂食嚥下療法、療育など支援をおこなっていききたいと思います。

強度行動障害を伴う利用者への療育支援について

主任保育士 高木 美緒

西Ⅰ・西Ⅱ病棟には強度行動障害を有する方が入所されていますが、私たち療育指導室は入所されている皆様の発達年齢や育ちに合わせた「発達支援」と楽しめる活動や行事といった「日常生活支援」をベースに援助しています。「発達支援」といっても成人の方には機能維持やスキルの向上という方が適しているかもしれません。発達段階を踏まえて支援することは重要です。どこまでできるのか、コミュニケーション力、理解力を知ることによって支援方法が変わってきます。そして、活動や行事の支援において共通することは「環境調整」「特性に合わせた支援」「リスクへの配慮」が挙げられます。しかし一番大切にしたいことは「楽しいと思ってもらえる活動を提供すること」「自分たちも楽しむこと」です。私は「楽しい」を共有することが「またしたい」と思ってもらえることに繋がると考えています。又、入所されている皆様の生活がより豊かに、楽しくあるように多職種と情報を共有し連携していくことが大切だと考えます。

災害対策委員会での取り組み

心理療法士 諸見 秀太

当院では令和4年度に災害対策委員会を発足し、今年度で5年目になります。平時から災害に備え、災害拠点精神科病院として速やかに対応できるよう病院全体の取り組みとして委員会活動を継続しております。今回は本委員会での取り組みの一部をご紹介します。本委員会は、各部署から1名を当委員会の担当として参加いただき、20名程度のメンバーで構成しております。委員会の運営は当院 DPATを中心に行っており、月1回の委員会では、災害に関するテーマをもとにグループワーク・シミュレーション・短時間での訓練を実施しています。具体的には、災害等で電気・ガス・水道等が止まった時に生じる事態とそのときにできる臨時的対応、災害直後における通信不具合下での家族との連絡方法、発災後の初動の動きの確認、備蓄内容、などさまざまな事態を想定し、備えております。近年県内でも、大雨や台風による水害や土砂災害、津波注意報・警報の発令、など災害が身近に感じる機会が増えています。当院も、有事の際に速やかに対応できるよう、病院全体としての備えについて、当委員会の活動を通して平時から取り組んでいきたいと思っています。



R8年度 災害対策委員会 年間計画(案)

目標	・大規模災害発生時に対応できる組織的な運営の準備と平時の備えを行う ・災害時の緊急時の連絡体制を整備し、迅速な対応を行う ・災害時の緊急時の連絡体制を整備し、迅速な対応を行う	第1会議日 15:00~16:00
月間計画・テーマ		
5月	災害対策委員会の組織と今年度の方針と計画(災害拠点精神科病院としての役割等) 『災害時の緊急時の連絡体制について』	
6月	『災害時の緊急時の連絡体制について』	
7月	『台風時の対応』	
8月	『緊急点検報告書について』	
9月	『被災時の病院の状況を知って、方針を立てる』(現状課題分析シート)	
10月	『院内防災訓練』	
11月	『R7.11.24(月)北部地域の大型地震による断水対応を振り返る』	
12月	『災害時の記録』	
1月	『大規模地震で長期対応にあたる職員のメンタルヘルスケアについて』	
2月	『院内防災訓練振り返りR7年度委員会活動振り返り』	